

令和 5 年 6 月 14 日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K13011

研究課題名（和文）狩野派表絵師および藩絵師の研究

研究課題名（英文）A Study on Omote-Eshi and Han-Eshi in Kano School

研究代表者

柏崎 諒（KASHIWAZAKI, Ryo）

早稲田大学・會津八一記念博物館・その他（招聘研究員）

研究者番号：10779078

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 800,000円

研究成果の概要（和文）： 狩野秀水家資料についての論考2本を執筆した上、2022年4月には早稲田大学會津八一記念博物館において企画展『お殿様と狩野派 秋田藩主佐竹氏と藩絵師狩野秀水家』が開催された。加えて、同展においては図録が制作され、同展図録にも論考1本を掲載した。  
狩野了承については、「馬の博物館蔵「庭前調馬図」について 狩野了承の画業を中心に」（『馬の博物館紀要』22号、2020）を執筆した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

狩野秀水家資料はまとまった量の粉本群であることから重要な資料と言える。狩野秀水家資料の一覧を公表する事で、他の研究者が狩野秀水資料を調査する際の便を図った事は大きな意義があったと考えられる。狩野了承に関する研究においては、それまで重用されていなかった深川水場狩野家に用紙入りして表絵師となったという点で特異な狩野派絵師と言える了承について、狩野派の組織面から考察することが出来た。  
狩野派内の下位の絵師の研究を通して、狩野派の組織を考える事で、日本絵画史研究全体に資したい。また、諸国各藩の藩絵師研究が活性化させる事で、地域の絵師研究に貢献を果たし、地域活性化につながっていくことを期待したい。

研究成果の概要（英文）： I published two papers about Historical Materials of the Kano Shusui Family. Special exhibition of Kano Shusui Family held at the Aizu Museum Waseda University in 2020. A catalog of this exhibition has been published, and my paper was included in this catalog. I published a paper about Kano Ryosho.

研究分野：美術史

キーワード： 狩野派 表絵師 藩絵師 深川水場狩野家 狩野秀水 狩野了承 出羽久保田藩佐竹家（秋田藩） 粉本

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

これまでの狩野派研究では、指導的な立場や中心的な役割を果たしたとされる棟梁等の一部の絵師に注目が集まりがちであった。また、個々の絵師や作事についての研究が大半で、時代の流れの中で狩野派全体の動向を考察した上で、組織の構造や変遷については少なかった。

報告者はこれまで、狩野派の下位の構成員であった表絵師や後に表絵師となる家系の絵師がいかなる活動を行ったのかを論じる事で、狩野派の組織構造やその変遷について考察してきた。「身延山久遠寺の伝狩野元信筆旧障壁画群」(古俣諒名義にて執筆、『早稲田大学文学研究科紀要』第59輯、2014)において、室町時代後期の作と考えられる日蓮宗総本山身延山久遠寺の伝狩野元信筆旧障壁画群の研究を通して、元信工房が元信不在時でも大規模作事に対応できるほどの組織力をもった集団である事を明らかにし、「狩野元俊の画業と日蓮宗」(『法華學報』24号、2015)において、狩野派が江戸時代初期には比較的独立して活動を行っていたことを論じている。

## 2. 研究の目的

本研究期間においては、報告者がこれまで行ってきた狩野派の組織構造やその変遷についての研究の一環として、江戸時代後期の表絵師や諸国各藩に使えた藩絵師についての研究を行う事を目的とした。本研究では元信の次男とされる狩野秀頼に始まる山下狩野家の分家である深川水場狩野家に養子入りして家督を相続した狩野了承(明和5年—弘化3年〔1768—1846])と、表絵師の家系である浅草猿屋町代地狩野分家の次男秀水尊信の名跡を継いで出羽久保田藩(秋田藩)佐竹家の藩絵師となった狩野秀水求信(安永2年—天保8年〔1773-1837])の家系を扱うことで狩野派の組織について考察する事とした。

本研究は、下位の絵師を扱い、時代を限定しない俯瞰的な視点という狩野派研究にこれまでなかった着眼点を提案することを目的としている。本研究を狩野派の組織についての研究、及び表絵師や諸国各藩の御抱え絵師などの組織の構成員であった絵師についての研究の端緒としたい。狩野派は画壇の中心であり、他の画派に与えた影響も大きかったと考えられることから、狩野派の組織の変遷について論じることは他の日本絵画史研究にも新たな視点を生むきっかけになると考えられる。本研究によって、表絵師研究、ひいては日本絵画史研究を活性化させたい。

## 3. 研究の方法

狩野秀水家の研究については、狩野秀水家の御子孫が所蔵する約600点の粉本からなる出羽久保田藩佐竹家御絵師狩野秀水家資料(狩野秀水家資料)の調査、研究を行った。狩野秀水家資料のすべての粉本について写真撮影を行い、調書を作成した上で、その整理を実施した。その過程で、狩野秀水求信に加えて、秀水求信の養子となった秀玉、子である秀元貞信、秀元貞信の女婿である秀水義信の経歴等についても研究を行った。

狩野了承の研究については、了承の現存作例の調査、研究を行った。本研究期間においては、了承作品の内、個人蔵のものを中心に新出の作品を多く調査する事が出来た。了承は、養父狩野梅笑師信(享保13年—文化4年〔1728—1807])から深川水場狩野家の家督を相続している。梅笑師信は、了承が養子入りする以前は狩野家から義絶されており、東北を中心に活動を行った絵師である。後に、梅笑師信の義絶は解かれているが、了承は狩野派絵師としての実態が極めて薄かった深川水場狩野家の家督を相続している。それにも関わらず、了承は徳川家斉の姫君などに関連する画事を多く手懸けている事が判明している点で、特異な狩野派絵師と言える。そのため、了承の家督相続の経緯や姫君関連の画事の多さについての考察を行った。

## 4. 研究成果

狩野秀水家に関する研究成果としては、「出羽久保田藩佐竹家御絵師狩野秀水家資料 狩野派藩絵師の粉本について」(『美術史研究』57号、2019)において、狩野秀水家資料の概要を紹介し、狩野秀水家資料の粉本を(一)寓目作品の縮図、(二)職務上あるいは自身の学習のために制作した古画の模写、(三)画を制作する際に用いた下絵類である自作下絵、(四)鳥獣や風景、風俗などの写生と、(五)それらの粉本をもとに描いた手本を製本した絵手本帳の5つに分類し、それぞれの粉本の制作事情や活用状況について考察を行った。その後、「出羽久保田藩佐竹家御絵師狩野秀水の研究」(『鹿島美術研究年報別冊』37号、2020)において、狩野秀水家の絵師たちの概要を述べると共に、再模写により制作された粉本について考察を加えた。

2022年には、早稲田大学會津八一記念博物館において、本研究の成果として、狩野秀水家資料を紹介する展覧会である『お殿様と狩野派 秋田藩藩主佐竹氏と藩絵師狩野秀水家』展が開催された。同展図録には、「狩野秀水家資料の概要と粉本に関わる諸問題 木挽町狩野家及び大名家関係の粉本についての一考察を兼ねて」を執筆したほか、狩野秀水家資料の粉本の全てを取り上げた一覧が掲載された。この一覧を参照することで、他の研究者が狩野秀水家資料を利用しやすくし、今後の日本絵画史研究に資することが出来た。

狩野了承に研究においては、「馬の博物館蔵「庭前調馬図」について 狩野了承の画業を中心

に」（『馬の博物館紀要』22号、2020）の中で、了承の画風について言及するとともに、その画業について考察した。了承の徳川家関係の画業の中で、徳川家斉の姫君に関わる画事が多い事は以前から言及されている。拙稿では、了承がその経歴から同時代の狩野派表絵師の中でも重用された絵師であることを述べた。その上で、将軍の子女の成長の折々に行われる奥向きの画事に了承の画風が適していた事、了承が重用された要因として歴代の徳川将軍の中で最も多くの子がいたとされる家斉の時代には奥向きの画事が増加していた事が挙げられる可能性について論じた。狩野派は血縁関係を重視した画派であり、狩野家と血縁関係がない了承が重用された事は特異な例と言える。そのため、本研究において了承の画業を考察出来た事で、狩野派の組織構造やその変遷について考える上での一助となったと考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 柏崎諒	4. 巻 37
2. 論文標題 出羽久保田藩佐竹家御絵師狩野秀水の研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鹿島美術研究年報別冊	6. 最初と最後の頁 394-403
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柏崎諒	4. 巻 22
2. 論文標題 馬の博物館蔵「庭前調馬図」について 狩野了承の画業を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 馬の博物館研究紀要	6. 最初と最後の頁 11-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 柏崎諒	4. 巻 57
2. 論文標題 出羽久保田藩佐竹家御絵師狩野秀水家資料 狩野派藩絵師の粉本について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 美術史研究	6. 最初と最後の頁 19-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柏崎諒	4. 巻 なし
2. 論文標題 狩野秀水家資料の概要と粉本に関わる諸問題 木挽町狩野家及び大名家関係の粉本についての一考察を兼ねて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『お殿様と狩野派 秋田藩藩主佐竹氏と藩絵師狩野秀水家』展図録	6. 最初と最後の頁 44-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 山田麻里亜、柏崎諒	4. 発行年 2022年
2. 出版社 早稲田大学會津八一記念博物館	5. 総ページ数 80
3. 書名 『お殿様と狩野派 秋田藩藩主佐竹氏と藩絵師狩野秀水家』展図録	

〔産業財産権〕

〔その他〕

早稲田大学會津八一記念博物館において、企画展『お殿様と狩野派 秋田藩藩主佐竹氏と藩絵師狩野秀水家』が2022年4月に開催された。
--

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------